

高島町立小学校教育環境等検討委員会

第3回会議録

日 時：令和7年3月4日（火）午後6時30分～午後8時14分

場 所：高島町中央公民館 201研修室

出席者：検討委員会委員13名（2名欠席）、事務局4名

◇開会

◇委員長あいさつ

こんばんは。三寒四温という言葉が当てはまるようにゆっくりと暖かくなってくるような感じです。今日も遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。今やっている作業は子どもたちに準備する環境について、「なぜか」という理由を少しずつはっきりさせていこうということだろうと思います。言葉にできることが大事だと思いますので、少しずつ整理していくと将来の学校像の選択肢、なかなか1つにはまとまらないと思いますが、いくつかの学校像が見えてくるといいなと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

◇説明

- ・「将来像」の分類について
事務局より説明。
- ・町の取り組み事例について
事務局より説明。

◇協議

事務局：それでは協議に入ります。座長を委員長にお願いいたします。

委員長：それでは、15年後に20歳を迎えるお子さんの将来像を考える第2弾になります。新たに出てくることもあると思いますが、将来像の優先順位を付けていただきたいと思います。全てを網羅できれば良いのですが、それは難しいので、どれに一番重点を当てればいいのかお互いに意見交換をしていただきたいと思います。まずはご自身がやっぱりこれを大事にしたいと思うことを3つ選んで、その選んだ理由や根拠をなるべく具体的に皆さんと共有できるように取り組んでみてください。

<各自思案する>

委員長：それでは、皆さんがそれぞれ一番目に選んだものを交流して、その後で二番目に選んだもの、最後に言い残したことというように進めてください。ではお願いします。

<グループワーク>

「15年後に20歳を迎える子どもの将来像の優先順位」について、3グループに分かれて話

し合う。

委員長：盛り上がっているところですが、一番中心に大事にしなければいけないもの、その周りにあって二番目に大事にしなければならないもの、さらにその外側にあって三番目に大事にしなければならないもの、というようにグループ毎にまとめていただけますでしょうか。

＜グループ毎に話し合う＞

委員長：それでは途中だと思いますが、それぞれのグループの議論を共有したいと思います。Aグループからお願いします。

委員：Aグループでは、「主体性」と「他者との関わり、コミュニケーション」に落ち着きました。主体性と言っても何かきっかけがないと物事は進まないというところと、子どもたちは楽しさが感じられないと主体的には進んでいけないところがあるので、まずは主体性が伸ばせる環境が出来ればよいと思いました。主体性が芽生えてくると、他者と関わることで考えの違いなどを経験するとどんどんコミュニケーションが熟成されていくので、Aグループではこの二つが大事かなと考えました。他に、「思いやり」や「健康や活力」などが出ましたが、自分の思いとしては「郷土愛・キャリア形成」を選んでほしいなと思います。地元を離れる若い世代が多い現状や農業のなり手不足という現状がありますので、郷土愛を大事にしてもらいたいです。最後に、どの項目を取ったとしても子どもたちには楽しさが大事で、楽しさを感じられる環境を作っていくことがポイントだと思います。

委員：Bグループでは、「立ち直る力」が一番多かったです。それが中心というよりは人間形成の根底にあってほしいもの。円の中心というより根底にあってその上に他者との関わりや、思いやりや主体性や生きる力や自己肯定感があるのではないかという話になりました。間違えることへの恐怖感を抱いている子どもたちが多く感じます。目標にたどり着くプロセスはそれぞれであっていいはずで、間違ってももう一度立ち直る力、諦めないことを大事にしていきたいという話になりました。間違えてもいいんだ、という周りの環境を作っていけたら他の部分も伸びてくるのではないかという話になりました。

委員：Cグループでは、「主体性」といった自分に関わること、「思いやり」といった他との関わりに集中しました。考えてみると、「主体性」や「思いやり」といった人間性と、「情報リテラシー」などは何々をする力であり、階層が違うのかなと思いました。主体的に生きていってほしいと思いますが、他人を思いやることも同時に求めているものだと思いました。そのためにもコミュニケーション力がないと自分を伝えることは出来ませんし、他人を思いやってもそれが伝わらない。この二つを両立させていくためにはコミュニケーション力が欲しいと思います。「立ち直る力」ももちろん出ましたし、これらを支えていくのは「健康な体」だねという意見も出ました。これに関しては家庭教育、家庭の力が大きいと思います。朝ご飯を食べないとか、夜遅くまで起きているとかでなく、家庭の力で健康な子どもを育ててもらい、学校や地域でコミュニケーション能力や思いやりを持つ子どもたちに育てていけると、高畠の将来は明

るいのかなと思いました。

委員長：ありがとうございました。ここでまた他のグループの発表を聞いたところで、今思っていることや感じていることを話し合ってみてください。

＜グループ毎に意見交換＞

委員長：ありがとうございました。主体性とコミュニケーションという話があったわけですが、発表の中であったように楽しさや、夢中になれることがあった時に初めて主体的になっていられるので、子どもたちが思わず動いてしまうような環境の中で主体性が出てくるのだと思います。コミュニケーションについてもご指摘があったように、意見にズレがないとコミュニケーションは成り立たないと思っています。最近は言いつ放しのコミュニケーションが多いので、相手がどう受け止めるかを意識することも大事ですし、言葉に重みを乗せる、自分の考えを重ねることも大事だと思います。どういう質のコミュニケーションを子どもたちが身に付けるかが大事だと思います。レジリエンスについては、大人にとっても大事で、うまくいかない時がチャンスだと思って凹まないこと、相撲で言えば7敗してもいいわけです。頑張った後の見通しがないと力が出ませんし、一人で頑張るのも大変なので誰かに手伝ってもらうことも大事だと思います。文科省がいう「依存する強さ」一人で頑張らないで依存する強さを身に付けさせることも必要だと思います。郷土愛については、子どもたちは身近にいる大人をロールモデルにするので、ロールモデルをふんだんに子ども与えるしかないと思っています。

断片的にコメントしてきましたが、高畠では何を根っこにして子どもたちを育てたいのかという考えが今日出されたのかなと思いますので、次回以降はそれを具体的にどういう環境で伸ばしていくのかという話になると思います。お子さんや周りの方の経験、ご自身が経験してきた学校の環境を思い起こしながら少しずつ形を与えていけたらと思います。

以上で終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

◇その他

事務局：委員長ありがとうございました。

ここで、第2回検討委員会の会議録について何かございましたらご指摘いただきたいと思います。

(発言なし)

◇閉会

事務局：それでは以上を持ちまして第3回検討委員会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。